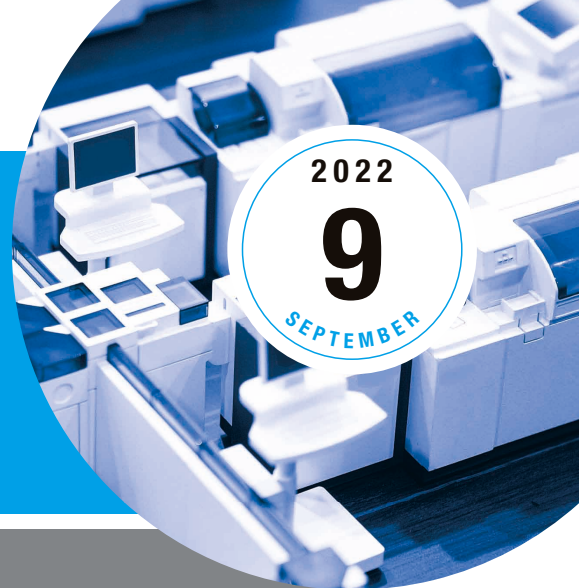


# Labo NEWS

Aichi Association of Medical Technologists Report



## らぼニュース

### CONTENTS

- 巻頭言  
技師会活動における会計部の役割 ..... 1
- 第21回愛知県医学検査学会を終えて ..... 2
- 地区だより(西三河) ..... 3
- 愛臨技HP求人情報掲載について ..... 3
- メールアドレス登録と受信設定のお願い ..... 3
- 令和4年度  
第1回 西三河がんフォーラム ... 4
- 講演会 ..... 5
- 日臨技中部圏支部研修会  
生物化学分析部門研修会 ..... 5
- 研究会 ..... 5
- AiCCLS 愛知県臨床検査標準化  
協議会通信(第83回) ..... 6
- 著作物紹介 ..... 6
- お詫びと訂正 ..... 6

2022年8月5日現在 正会員数 3,695名

## 技師会活動における会計部の役割

会計部 部長 石神 弘子

今年度も前期の日程が終わりつつあるこの時点で、愛臨技は来年度予算作成の時期になってきました。前期には日臨技が開催する日本医学検査学会もあり、愛臨技行事は後期に多く開催されています。私自身、研究班で予算要望書を出す立場だった時は今年度の行事もほとんど終わっていない時点で来年度の計画と予算を出すなんてとても難しいと感じていました。特に研究班は2年毎に班長を含め組織が替わるので、交代の年度はまだ会務の流れに慣れないまま、もう来年度の話！と戸惑っている研究班もあるかと思います。私もそうでした。ですが、技師会の予算作成には理事会での十分な審議が必要です。会計部では各事業部からの要望を取りまとめ、予算を作成していきます。限られた予算の中、ここは何か削れないか、ここは何かに代替えできないかなど各事業部にお願いしながら、予算を調整し何度も理事会で審議するためにはこの時期の予算要望書提出、予算作成開始となります。

今年度は多くの事業部で部長が交代し、研究班でも班長の交代がありました。きっと多くの新たな取り組みが予算計画に出てくるでしょう。会員の皆さんからいただいた会費を有効に継続的に使えるよう、かつ新たな企画にも取り組める予算になるよう心掛けていきたいと思っています。また、予算に合わせ、各事業部の活動が執行されているかを確認するのも我々会計部の役割です。新型コロナウイルス感染症の流行で行事の開催形式も多様となり、デジタル対応や感染予防対策も必要となっています。組織部、学術部とは特に密な連携を取り、研究班や地区での活動を出来るだけサポートしています。

今年度も研究班をはじめ、学術部、精度管理事業部、組織部、地区と多くの行事が計画されました。これら各事業部の方が愛知県臨床検査技師会会員の皆さんに役立つ企画をしっかりと予算を組み、遂行していただいています。是非、多くの行事に、より多くの会員の皆さんがご参加いただきますようお願い申し上げます。



# 第21回 愛知県医学検査学会を終えて

学 会 長 濱口 幸司

実行委員 大嶋 剛史、西井智香子、田中 浩一、山本 喜之、和出 弘章、  
犬塚 齊、佐藤 文明、井上 順子、山田 裕香、松浦 秀哲、  
伊藤 英史、佐々 孟紀、土方万由子、仲間 直、水谷 有希

第21回愛知県医学検査学会は、令和4年7月3日(日)西三河地区が担当し刈谷市総合文化センターアイリスにて開催いたしました。

今回の学会は、メインテーマを「臨床検査の未来を創造する」、サブテーマを“新たな領域への挑戦”としました。臨床検査技師の業務は、これまでの検査室中心の体制から検体採取が業務範囲に含まれ、採取から検査の実施まで一貫して携わる事でより精度の高い検査結果を出すことが出来るようになりました。2021年には医療法等の一部を改正する法律が正式に決定し、臨床検査技師の業務範囲の見直しが挙げられました。私たち臨床検査技師は、自らの能力を活かし、より能動的に対処できる仕組みを整えていくことが重要であると考え今回の学会を企画しました。一般演題の他にも多数の企画を準備し、パネルディスカッションでは「タスク・シフト/シェアから臨床検査技師のあり方を考える」と題し、タスク・シフト/シェアにおける業務内容の見直し、業務改善、課題などの討論を行いました。地区企画では、「次世代技術と臨床検査」とし臨床検査室、臨床検査技師の現在と未来に焦点をあて、臨床検査技師が新たに活躍できる場面やフィールドについてディスカッションいたしました。またシンポジウムでは臨地実習について「学生と現役技師で考えるこれからの臨床検査技師と技師教育」とし、多方面からの意見をいただきました。

学会当日は、朝方に雨が降り天候に恵まれない点もありましたが、3年振りの現地開催学会という事もあり、また会員や賛助会員皆様の多大なるご協力のおかげで798名と多くの方にご参加いただき、無事閉会することが出来ました。

## <一般演題>

84演題と、とても多くの登録をいただき、5会場にて症例報告、業務改善、取り組み、研究成果等の発表が行われ、活発な質疑応答が行われました。どこの会場も盛況で、立ち見さらには会場の外にまで聴講者があふれるほど活気に包まれていました。多くの若手技師の方々が堂々と発表される姿、質疑応答に対応されている姿、そして座長として進行されている姿には、これからの未来を担う臨床検査技師として、とても頼もしく感銘を受けました。



## <パネルディスカッション>

「タスク・シフト/シェアから臨床検査技師のあり方を考える」と題して4名のパネリストより、タスク・シフト/シェアの経緯と背景、臨床検査技師の将来、業務拡大、業務の見直し、様々な課題についてご講演いただき、ディスカッションを行いました。昨今の社会情勢や医療情勢の変化を正しく認識し、臨床検査技師に何ができるかでは無く何をすべきかを明確にし、様々な変化に対応できる臨床検査技師像についての討論を行いました。

## <シンポジウム>

「学生と現役技師で考えるこれからの臨床検査技師と技師教育」と題し、6名のシンポジストより講演をいただきました。新たな臨床検査技師教育で臨地実習



はどう変わるか、実際の臨地実習教育の取り組み等の講演の他に、現役学生より、臨地実習で学んだこと、将来の臨床検査技師像などの講演を聴くことができ、非常に有意義な内容であった。臨床検査技師を養成する立場、学生を受け入れ現場で臨地実習を行う立場、実習を受ける学生それぞれの考え方があるが、臨床検査を未来に繋げるための技師教育という考え方は一致しているという点が共有できたシンポジウムでありました。

## <西三河地区企画>

西三河担当地区企画は、「次世代技術と臨床検査」と題し、miRNA 測定技術を中心とした遺伝子検査、検査医学の将来、AI/ディープラーニングを応用した末梢血細胞画像解析と疾患鑑別に向けた試み、デジタル化による微生物検査の変革、の4つの講演をいただきました。臨床検査室、臨床検査技師の現在と未来に焦点をあて、様々な技術革新で効率化されたその先に、臨床検査技師が新たに活躍できる場面やフィールドについて個々が考える企画となりました。

## <ランチョンセミナー>

6会場に分かれて、ISO15189認定取得について、採血管取り扱いの基礎知識、実践 R-CPC で臨床検査値と病態を繋ぐ、臨床検査室の品質保証、臨床検査データで紡ぐ血液疾患についてご講演をいただきました。

## <機器展示>

20社21ブースと多くの企業にご参加いただきました。各ブース全てに活気があり、最新の検査機器、情報を得られる機会を設けることができました。

最後になりましたが、本学会の開催にあたり、ご後援いただきました、愛知県、刈谷市、愛知県医師会、愛知県病院協会をはじめ、共催・協賛をいただきました賛助会員の皆様、一般演題を発表いただいた会員の皆様、愛臨技会員の皆様、そして学会企画運営に携わっていただいた実務委員の皆様へ実行委員一同、心より御礼申し上げます。



JA 愛知厚生連 安城更生病院の健康管理センターは、2021年12月20日より新病棟に移設し「予防医療センター」としてリニューアルオープン致しました。

快適に受診していただくために待ち時間の短縮、明確な経路、女性限定エリア、落ち着いた色調の内装などアメニティ重視でホテルライクな空間が提供できるよう構築させていただきました。

検査項目も工夫し、検査着を着たまま、乳房を圧迫することなく

うつ伏せになるだけで検査可能な DWIBS search (MRI を用いた無痛乳がんドック)や、発見が難しい膵臓疾患の専門ドックなど、新しいメニューも用意しました。

働いているスタッフは30名弱で医師、保健師、看護師、事務、事務補助、放射線技師、臨床検査技師と多くの職種から構成され臨床検査室とは異なった雰囲気での業務となっていますが、各職種の特色を最大限に発揮し、また積極的に相互支援が行えるよう邁進しています。特に依頼者毎に異なる報告書発行業務が複雑ですが職種を超えて学び、取り組んでいます。

まだリニューアルして半年ですので、これから改善すべき点が多々出てくると思いますが、地域住民の健康と幸福に寄与できるよう、快適で高品質な受診を目指してスタッフ一丸となって取り組んでいます。

是非、皆様も見学、受診にお越しください。

*“For better your health, for better your life”*



## 愛臨技 HP 求人情報掲載

愛臨技 HP に臨床検査技師求人情報の掲載を始めました。

掲載を希望される会員は愛臨技 HP 会員サイト内「各種手続き」、「求人掲載依頼」画面にて必要事項を入力、求人票登録をお願いいたします。

なお、求人掲載は施設会員のみとしますが、求人情報は会員以外でも閲覧可能です。

詳細は愛臨技 HP にてご確認ください。

## メールアドレス登録と受信設定のお願い

当会からの重要な連絡事項等を、日臨技会員ページに登録されているアドレス宛にメール配信します。

登録メールアドレスの変更がありましたら、日臨技会員ページよりご変更をお願いいたします。

また迷惑メール防止の受信設定をされている方は、下記のメールアドレスからの受信ができるよう、設定のほどお願いいたします。

**jamt\_pref23@sys.jamt.or.jp**

## 令和4年度 第1回 西三河がんフォーラム

基礎教科：20点

日 時：令和4年10月26日(水) 18:30～19:30

場 所：安城更生病院 2階 第1講堂

テ ー マ：『多発性骨髄腫 ～診断から治療まで～』

講 師：日本赤十字社 愛知医療センター  
名古屋第一病院 血液内科 副部長 森下 喬允

司 会：安城更生病院  
血液・腫瘍内科 通院治療センター長 稲垣 裕一郎

参 加 費：無料

内 容：当院は地域がん診療連携拠点病院として、がん治療の三大療法である手術療法、放射線治療、化学療法に力を入れています。

今回の西三河がんフォーラムは、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院の森下喬允先生よりご講演いただき、西三河地区のがん診療に従事する医療者と共に薬物療法について学びます。

ただし、新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては急遽開催を変更する可能性があります。開催変更がある場合には、安城更生病院のホームページのお知らせにてご案内させていただきますので、お出かけ前にご確認ください。

### 講演会

#### 病理細胞・遺伝子染色体検査研究班合同講演会

専門教科：20点(レポートを提出者に限る)

閲覧期間：10月15日(土)～28日(金)

参加方法：日臨技 HP から事前参加登録

9月21日(水)～10月7日(金)

※視聴方法は後日メールにて配信

定 員：なし

参加費用：なし

レポート：11月10日(木) 締切

配信方式：オンデマンド配信

テ ー マ：がんゲノム医療について

講 師：

1. がんゲノム医療への向き合い方  
～臨床検査技師が成功のカギを握っている～  
慶応義塾大学病院 柳田絵美衣

2. リキッドバイオプシーによる遺伝子パネル検査と臨床応用  
愛知県がんセンター病院 ゲノム医療センター センター長  
衣斐 寛倫

3. コンパニオン診断における遺伝子検査の精度管理  
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 郡司 昌治

司 会：小牧市民病院 藤田 智洋  
愛知県がんセンター病院 平松 可帆

内 容：がんゲノム医療をテーマに3名の講師の方にご講演いただきます。講演内容は、がんゲノム医療における臨床検査技師としてどのように向き合うか、またパネル検査の臨床応用や精度管理など最新の話題についてご講演いただきます。現状を知ること、今後のがんゲノム医療について考える良い機会になると思います。賛助会員、学生の皆さまは(aamt-patho@aichi-amt.or.jp)へ直接参加希望の旨をご連絡ください。後日、視聴方法についてご連絡いたします。多くの方の視聴をお待ちしております。

# 令和4年度 日臨技中部圏支部研修会 生物化学分析部門研修会 開催案内

主催：(一社)日本臨床衛生検査技師会  
中部圏支部

実務担当技師会：愛知県臨床検査技師会

## 【テーマ】 救急医療と検査データ

【日 時】 11月26日(土)～12月30日(金)

【場 所】 Web 開催(日臨技 HP より参加申し込み)

【定 員】 200名

【受講料】 会員1,000円 ※視聴方法および入金方法は愛臨技 HP 生物化学分析検査研究班のページをご確認ください。

【申込期間】 10月1日(土)～10月31日(月)

【生涯教育】 専門教科 20点(レポート提出者に限る。締切：令和5年1月20日(金))

【日 程】

演題1 検査データから病態を考える ―小児科消化器診療での RCPC―

愛知医科大学病院 小児科 宮本 亮佑 先生

演題2 精度管理事業の課題 ―愛臨技精度管理事業部の取り組み―

愛知医科大学病院 中央臨床検査部 森部 龍一 先生

演題3 知っておきたい臨床化学の基礎 ―精度保証のために―

積水メディカル株式会社 検査事業部 カスタマーサポートセンター 学術企画グループ 石井 葵 先生

演題4 標準化について ―AiCCLS の取り組み―

医療法人純正会 名古屋市立緑市民病院 臨床検査科 清水 和樹 先生

演題5 救命救急医療と検査 ―ドクターヘリから EICU までの繋がり―

愛知医科大学病院 救命救急科 寺島 嗣明 先生



### 【研修会事務局】

〒480-1195

愛知県長久手市岩作雁又1番地1

愛知医科大学病院 中央臨床検査部 森部 龍一

Tel：0561-62-3311(内線35812)

E-mail：moribe.ryuuichi.472@mail.aichi-med-u.ac.jp

※当研修会は認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師制度に伴う、更新指定研修会(一括型：15単位)の申請を予定しています。申請状況は愛臨技 HP 生物化学分析検査研究班のページでお知らせいたします。

## 研 究 会

### 生理検査研究班

専門教科：20点

日 時：10月15日(土) 15:00～17:00

参加方法：日臨技 HP から事前参加登録  
9月17日(土)～10月8日(土)

定 員：120名

参加費用：なし

場 所：日本赤十字社愛知医療センター  
名古屋第二病院 研修ホール

テ マ：神経伝導検査・誘発電位のキホン

講 師：

1. NCS の基本原理と手技

医療法人豊田会刈谷豊田総合病院 鈴木 優大

2. 誘発電位の基本原理と手技

トヨタ記念病院 鍋谷 洋介

司 会：豊橋市民病院 神藤 駿

内 容：神経伝導検査や誘発電位は、電極装着や刺激そのものはシンプルですが、実際の解剖や測定原理などを押さえていないと、誘発された波形について正しいかが分からないこともあります。今回の研究会で、神経伝導検査と誘発電位各種の基本原理を学び、波形判読やアーチファクト対策などを整理しておきましょう。キホンを押さえておけば、検査時のトラブルなどにも対応でき、追加検査などより深い知識を学ばきっかけにもなるでしょう。ぜひご参加ください。



# AicCLS

## 愛知県臨床検査 標準化協議会

### 通信 (第83回)

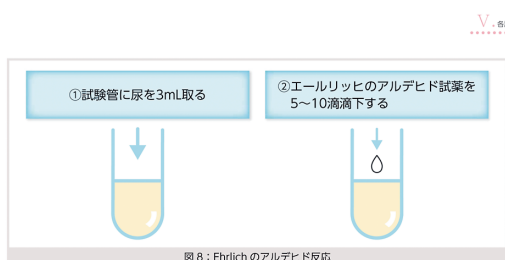
愛知県臨床検査標準化協議会(Aichi Committee for Clinical Laboratory Standardization: AicCLS)は、愛知県下の医療施設への臨床検査標準化の啓発活動を軸とした質の高い検査結果の共有維持を目的として、活動しています。

今回は、新しく発刊された刊行物、愛知県臨床検査値統一化ガイドライン「尿定性検査の手順書」についてご紹介いたします。

尿検査は非侵襲的で日常的によく使われる臨床検査のひとつであり、臨床検査技師のみならず医師、看護師など他の医療スタッフも携わることがあります。中でも尿試験紙検査法は、操作が簡便で迅速に実施することができますが、検査環境によっては偽陽性・偽陰性を呈することがあります。そこで本手順書では、起きやすい偽反応とその確認試験を中心に実践的に纏め上げました。

詳しい内容、購入方法については、愛知県臨床検査技師会 HP の臨床検査標準化情報をご覧ください。

(AicCLS: 愛知県臨床検査標準化協議会)



#### ■判定

- ・3分以内に明らかに赤色に発色するものは病的増加とする。
- ・3〜5分後にわずかに微赤色を示すものを(±)または正常とする。
- ・5分以上放置後、試験管上面から全液層を透視しても赤色を認めないものは(-)で病的である。
- ・赤色を示さない場合はウロビリノーゲンによるものではない。
- ・赤色の場合、諸物質による反応を除外するために、判定後試験管にクロロホルムを2mL加え振とう後、静置するとウロビリノーゲンは下層のクロロホルム層に移行し鑑別できる。クロロホルムが赤色にならない場合は偽陽性と判定する。



#### ○発色する諸物質<sup>4)</sup>

- ・赤色 …………… ボルホピリノーゲン、フィオリスリノゲン、インドール、メラノゲン、ウロロゼイン、インジルビン、5-ヒドロキシインドール酢酸(5-HIAA)
- ・橙黄色 …………… スルファミン剤、パラアミノサリチル酸
- ・桃色〜赤色 …… クロロプロマジンなどのフェノチアジン系化合物
- ・赤褐色 …………… フェナゾピリジン
- ・青色 …………… スカトール

26



AicCLS 尿定性検査～尿試験紙検査法の手引き～より引用

#### 煮沸法

- 1) 尿を試験管に3mL入れる。
- 2) 直火または沸騰浴中に15分間入れる。
- 3) 冷却後再検査する。

#### ■判定

加熱処理により、アセト酢酸はアセトンとCO<sub>2</sub>に分解し、アセトンは揮発して反応は陰性化する。陽性の場合は薬剤による偽陽性と判断できる。

#### 9. 比重

尿比重は尿中の全溶質の濃度(重量)を示し、腎における尿の希釈・濃縮能力を反映している<sup>17)</sup>。尿は電解質(おもにNa<sup>+</sup>とCl<sup>-</sup>)、尿素を主成分とする多成分系の混合溶液であり、異常尿では蛋白、糖などを含有するため、浸透圧・比重・屈折率の相互関係は病態によりかなりの変動がみられる。しかし、一般的には三者が比較的良好に相関するため、尿の希釈・濃縮力の判定は比重測定で代用され、尿比重の測定法として簡便な屈折計法や試験紙法が浸透圧測定のスクリーニングとして用いられる。

健康人の24時間蓄尿の比重は1.015前後で、水分の摂取状態や喪失状態(発汗など)により1.002〜1.045の間を変動する。病的状態は低比重尿、等張尿、高比重尿に分類される<sup>17)</sup>。

表12 尿比重の分類

|               |              |                                               |
|---------------|--------------|-----------------------------------------------|
| 低比重尿<br>(低張尿) | 1.008以下      | ・尿崩症などの腎機能低下による病的多尿の状態。<br>・水分過剰摂取や利尿剤投与時     |
| 等張尿           | 常に1.010付近に固定 | 腎不全未明などの腎の濃縮能・希釈能が悪く低下した状態で、尿量が増加しても比重は変化しない。 |
| 高比重尿<br>(高張尿) | 1.030以上      | ・高熱、激しい下痢・嘔吐などの脱水状態で尿量が低下した状態。<br>・糖尿病(尿量増加)  |

28

## 会員執筆物の紹介原稿募集します！

会員の業績紹介の一つの方法として、らぼニュースにて論文、書籍執筆(分担執筆を含む)などの紹介掲載を受け付けます。自薦・他薦は問いません。

掲載を希望される方は愛臨技 HP【会員サイト】(各種手続き)に申請書、手続き方法を掲載してありますのでご覧いただき、お申し込みください。



愛臨技 HP

#### お詫びと訂正

先月らぼニュース8月号の、「令和4・5年度公益社団法人愛知県臨床検査技師会 役員」の記載に右記の誤りがございました。誠に申し訳ございません。

【誤】畑 七菜子 【正】畑 七奈子  
【誤】山崎 正夫 【正】山崎 正夫